

きほくのまち人探訪

鬼北町生活研究協議会
ひよしゆめこうぼう
日吉夢工房

日吉小・中学校で「食文化普及講座」を行うなど、郷土料理の研究・伝承に取り組む鬼北町生活研究協議会・日吉夢工房の皆さん。4月17日に八幡浜市で開催された「第4回ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会」において、会員の岩本恵子さん（写真右から3人目）が出品した柚子マーマレードが「自家製のマーマレード」の部で見事に「金賞」を受賞しました。

日吉夢工房は、第1回大会で銅賞を受賞したことをきっかけに

毎回出品し、その後はいつも銀賞以上を獲得しています。

高齢化の波にも負けず、若い会員さんも多い日吉夢工房。「活動が強制じゃないのが良い」「おしゃべりや共同作業が楽しい」と、会員同士がゆるやかにつながって、仲良く楽しく活動しています。「レジェンドたちの教えが、今も生きている」と話す岩本さん。会を引退された先輩方の教えを、若い世代に脈々と受け継いでいくことが、活動のモチベーションとなっているようです。

「若い世代にも、郷土料理に興



「柚子マーマレード“金賞”に輝く」

味を持ってほしい」「他の団体にも、活動が波及したら良い」「農業女子のように、活躍する女性が現れてほしい」「鬼北といえど〇〇”と言えるような目玉商品を作りたい」「6次産業化のための加工場の整備など、行政にも協力してほしい」などなど、今後の展望は盛りだくさん。郷土愛と情熱に溢れる日吉夢工房の皆さんの活動に、ぜひご注目ください。

ALTの鬼の里Diary ~Ada's編~

「My goal is to become a library director」



初めて日本に来たとき、私は日本語をほとんど話すことができませんでした。大学時代に少し日本語を勉強したことがあり、教師になりたかったので、日本に来たのです。ALTは私にとって本当に良い機会だと思ひ、3年以上は滞在しようと思っていました。それから5年が経ち、ついにアメリカに帰る時が来たことが信じられません。次の人生のスタートを切るのが楽しみです、日本がとてとても恋しくなります。

初めて経験することがたくさんありました。太鼓を叩いたり、流しそうめんを食べたり、温泉に行ったり、教師としての自信もつきました。日本の自然、食べ物、面白い文化、かわいい文房具など、日本で好きなものがたくさんできました。しかし、私が

日本を好きになり、できる限り長く滞在した理由は、「人」でした。日本に住んでいる間に出会った学生、先生、友人たちは、日本を故郷のように感じさせてくれました。鬼北の人はとても親切で、歓迎してくれて、面白い人たちでした。誰もが常にベストを尽くし、できる限り助けようとしてくれました。皆さんの影響で、私はより良い人間になることができました。

私はこのモチベーションと精神を、アメリカでも持ち続けようと思っています。私の目標は図書館長になり、子供たちと一緒に働き続け、読書と教育を促進することです。また、私が学んだ日本文化をアメリカでも伝え、すべての人に日本の美しさを楽しんでもらいたいと思っています。

地域おこし協力隊活動日記

「公営塾がオープンしました！」

地域おこし協力隊1年目

ふじなみ かえ かわい こうえつ
藤波 架江(左) 川井 康悦(右)



6月1日より正式にオープンとなった鬼北町公営塾で講師として活動してい

る川井と藤波です。5月9日よりプレオープンをしていましたが、その期間中、たくさんの北宇和高校の生徒が足を運んでくれました。

そもそも公営塾とは何をしているところなのか、ということですが、一つは地域の中であって、都市部と地域との教育の格差を解消していくという役割があります。しかし、実際に通ってきてくれた生徒の話を聞いていくなかで、高校生という時期において、学校でも家庭でもない居場所があるという部分でも、大きな意味を持っているのではないかと感じています。

学校や家庭以外の人間関係や、地域との関係を通して、こうありたいと思う自分が見つかる、そこに向けてどのように進んでいくかを考える、そして実際に行動してみる、というように、将来に向かって進んでいくきっかけになることができればと考えています。

現在は主に川井が数学、藤波が英語を担当しています。勉強以外にも、地域に関連したイベントも予定しており、6月は町の特産である泉貨紙を用いた障子づくりを開催しました。

始まったばかりの公営塾ですが、皆さんよろしくお願ひします。